

第21回「話してみよう韓国語」青森大会 大会要項

1 趣 旨

韓国語を学んでいるみなさん、韓国に興味があるみなさん、本大会は中高生からシニア学習者まで、みんなが楽しく発表し、国境と世代をこえて語り合える日韓交流の場です。そして、これを機会に、友だちや家族の皆さんにも気軽にご来場いただき、韓国の文化に関心を持つ人の輪がますます広がるよう願うものです。

本大会は、青森県内の韓国語や韓国文化を愛する市民有志で構成される「話してみよう韓国語」青森大会の実行委員会と駐日韓国大使館 韓国文化院が、弘前大学との共催で実施し、東北や北海道の学習者の参加を広く募集いたします。奮ってご参加ください。

2 募集の概要と応募方法

(1) 募集の概要

中高生スキット部門、一般スキット部門、スピーチ部門があります。応募者多数の場合、事前審査を行う場合もあります。部門ごとに参加資格等が異なりますので、ご注意下さい。また、ダンスやK-POP など韓国文化にかかわるものを自由に発表する自由発表部門も行います。自由発表部門は時間の制約上、参加者数の制限がありますので、あらかじめご了承ください。

(2) 応募方法

申込は下記の URL 又は QR コードを読み取り、申込フォームから応募してください。受付後に事務局から受領確認メールを差し上げます。確認メールが届かない場合はお問い合わせください。

また、原稿・音源も応募締切日までにメールで提出して下さるようお願いします。

① 応募締切 2025 年 10 月 15 日（水）必着

② <https://forms.office.com/r/xiipcGYXHK>



③ 原稿・音源の送り先

メールアドレス：mareboja.a@gmail.com

「話してみよう韓国語」青森大会 実行委員会宛

(3) 問合せ先 「話してみよう韓国語」青森大会 実行委員会事務局(担当：清水)

TEL 080-6036-1198(9:00～19:00)

Email:mareboja.a@gmail.com

3 予選と事前審査

(1) 予選

応募者多数の場合は事前審査を行い、結果を通知します。

(2) 本選

期日：2025年11月22日(土)午後2時(予定)

会場：ヒロロ4階 弘前市民文化交流館ホール (弘前市駅前町9-20)

(注1) 本選参加者の交通費補助

最寄りの地方大会に参加することを基本とします。本選出場者の交通費が1人往復5,000円を超える場合、1人10,000円を限度に助成します。参加者本人のみを対象とします。所属学校や他の機関から補助を受けられる方は対象となりません。

(注2) 本選の発表順は、主催側で決めさせていただきます

4 応募要項

共通参加資格

- (1) 韓国語を母語としない、日本国内の学校に在籍する中学生以上の者。国籍は問いません。
- (2) 応募時点から過去1年以内に、本大会を含む他の韓国語コンテスト等の本選で最上位(最優秀賞、優勝、大賞など)を受賞したことがない者。(最上位を受賞したものでも、上位の部門への応募はできます)
- (3) 応募者が5組以下だった部門は、開催いたしません。
- (4) 複数部門のお申込みはできません。また、申し込み後に参加者を交替することはできませんので、ご注意ください。

中高生スキット部門

参加資格

- (1) 韓国語を母国語としない中高生。国籍は問いません。

- (2) 韓国語あるいは、韓国語を常用する地域における生活経験が合算して1年未満の中高生
- (3) 韓国語初級者向けの部門です。

概要

- (1) 制限時間3分。
- (2) 指定の台本を暗記し（台本を読み上げることはできません）。2人1組で韓国語の発音や表現力を競います。1人での参加はできません。申し込み後に参加者を交替することはできません。
- (3) 本文自体を変えることはできませんが、語尾を変えたり、文章を一部追加したりすることが出来ます。（全体の3分の1程度まで）。
- (4) 服装・メイクは自由ですが、小道具は身の回り品程度とします。BGMを流すことも出来ますが審査の邪魔にならない程度でお願いします。BGMの挿入等主催者側では対応できかねますので、参加者側（本人または付き添いの方等）で操作して下さるようお願いします。
- (5) 応募時に、小道具・BGMの内容をお知らせください。

提出物

- (1) スキット台本のセリフを録音したもの（MP3形式）
- (2) 追加変更した部分がわかるような韓国語と日本語の台本（Wordを使用）
変更部分のみの原稿は不可

一般スキット部門

参加資格

- (1) 韓国語を母国語としない者。
- (2) 大学生の場合、日本国内の学校に在籍する者。
- (3) 韓国あるいは韓国語を常用する地域における生活経験が合算して1年未満の者。
- (4) 韓国語初級者～中級者向けの部門です。

概要

- (1) 制限時間3分。
- (2) 指定台本を暗記し（台本を読み上げることは出来ません）、2人1組で韓国語の発音や表現力を競います。1人での参加はできません。申し込み後に参加者を交替することはできません。
- (3) 本文自体を変えることはできませんが、語尾を変えたり、文章を一部追加したりすることが出来ます。（本文全体の3分の1程度まで）。
- (6) 服装・メイクは自由ですが、小道具は身の回り品程度とします。BGMを流すことも出来ますが審査の邪魔にならない程度でお願いします。BGMの挿入等主催者側では対応できかねますので、参加者側（本人または付き添いの方等）で操作して下さるようお願いします。
- (4) 応募時に、小道具・BGMの内容をお知らせください。

提出物

- (1) スキット台本のセリフを録音したもの（MP3 形式）
- (2) 追加変更した部分が見えるような韓国語と日本語の台本（Word を使用）
変更部分のみの原稿は不可。

スピーチ部門

参加資格

- (1) 韓国語を母国語としない者。
- (2) 中高生～大学生等は日本国内の学校に在籍する者。
- (3) 韓国あるいは韓国語を常用する地域等での生活体験が合算して 1 年未満の者。

概要

- (1) 制限時間 5 分以内。1 人で参加します。
- (2) 暗唱しての発表、原稿を見ながらの発表も可能です。
- (3) A, B いずれかのテーマについて作文し、それに基づいて発表します。

テーマ：A 「韓国の社会や文化について」 B 「韓国との交流促進について」

提出物

- (1) 韓国語原稿と日本語訳原稿（Word を使用）
- (2) スピーチを録音したもの（MP3 形式）
- (3) 募集締め切り後にスピーチの内容を変更することはできません。

自由発表部門

参加資格

- (1) 韓国文化をこよなく愛する者。

概要

- (1) 韓国に関係のあるパフォーマンス（歌、ダンス等）を発表します。
- (2) 制限時間 5 分以内。（発表時間を短縮する場合があります。）
- (3) この部門は審査の対象ではありません。
- (4) 発表順は主催側で決めさせていただきます。

※応募多数の場合はお断りする場合があります。

※ 公平な審査のために次の点を必ずお守りください

- ① 録音媒体には発表内容以外の事項（自己紹介など）は入れないでください。
- ② 1つの録音媒体には1組ずつ（1名ずつ）を厳守願います。
- ③ 録音される際は、録音時のボリュームを大きめにし、送付する前に必ず一般の再生機器で再生して音質等を確認してください。録音されていなかったり、ボリュームが小さくて聞きづらかったりする場合、事前審査の際、不利になることがあります。
- ④ 提出する原稿・台本は左綴じにするため、左余白は必ず1.5cm以上にしてください。

5 審査基準 （ ）内の数字は100点中の配点です

<中高生スキット部門>

発音（50）	正確さ、イントネーション、聞き取りやすさ
総合表現力（40）	話す速度、強弱、身振りや手振り、感情表現など、アドリブ含む
暗唱（10）	原稿などを見ないで発表

<一般スキット部門>

発音（50）	正確さ、イントネーション、聞き取りやすさ
総合表現力（40）	話す速度、強弱、身振りや手振り、感情表現など、アドリブ含む
暗唱（10）	原稿などを見ないで発表

<スピーチ部門>

発音・表現（50）	正確さ、イントネーション、聞き取り、話す速度、強弱、感情表現など
内容・構成（50）	内容、語彙的な問題、誤用、起承転結など

※発音・イントネーション等の基準について：

本大会では、ソウルを標準語とする韓国語を基準にして審査を行います。

※制限時間について

制限時間を超えた場合は、減点の対象となります。

6 審査員

審査員長	東北文化学園大学 総合政策学部教授	文 慶喆	（日本韓国語教育学会前会長）
審査員	青森大学日本語教育センター員	朴 芝仙	
審査員	弘前大学理工学研究科准教授	任 皓駿	

7 賞（予定：変更されることがありますので予めご承知おきください。）

	中高生スキット部門	一般スキット部門	スピーチ部門	備考
最優秀賞 ※注2	賞状 高校生は「話してみよう韓国語」高校生全国大会出場権（高校生の最上位組）、スマートフォンプリンター ※注3	賞状 旅行券または日韓往復航空券	賞状 旅行券または日韓往復航空券	
優秀賞	各部門から1グループ（1名）ずつ 賞状、ブルートゥースイヤホンまたはそれに準ずるもの			
奨励賞	各部門から1グループ（1名） 賞状、韓国語学習書またはそれに準ずるもの			
努力賞	入賞者以外へ図書カード			

（注1） その他全体から1グループまたは1名に特別賞があります。

（注2） 出場者のレベルにより最優秀賞等が空席となることがあります。

（注3） **中高生スキット部門の総応募数が5組以上の場合のみ授与。**

- ① 東京までの往復交通費＋都内ホテル1泊（朝食付、相部屋）が合わせて提供されます。中学生が最優秀賞を受賞しても同権利は提供されません。高校生の最上位組が出場権を獲得します。また、高校生の最優秀者が辞退した場合は、次点受賞者が出場できるようになります。
- ② 総応募数が5組未満の場合は、青森大会で「話してみよう韓国語」高校生全国大会出場権を得ることはできません。

8 主催・後援・協賛団体

主催： 第21回「話してみよう韓国語」青森大会 実行委員会、
駐日韓国大使館 韓国文化院

共催： 弘前大学、駐日韓国文化院 世宗学堂

後援： 青森県教育委員会、弘前市、青森地区日韓親善協会、弘前地区日韓親善協会
在日本韓国民団青森地方本部

協賛： 青森県日韓親善協会連合会、青森空港国際化促進協議会、青森空港ビル、
青南商事